

欧州中央銀行の踏み込んだ資金供給から欧州金融危機がひとまず沈静化した。日本銀行と市場のコミュニケーションの改善もあり、円高が是正され、株価も回復基調にある。景気は小康状態だが、わが国の今後の成長のため金融面でいま前向きにできることは何であろうか。

まず、成長する海外需要の果実を取り込むため

日本の成長と金融の役割

日本総合研究所理事 翁 百合



の企業進出は、日本の成長を支える重要な鍵となる。海外での企業活動が増大する中で必要なことは、現地での資金調達を円滑にすることだろう。

最近商社の元建て社債の発行などが始まり、ソフトカレンシー（流動性に乏しい通貨）での資金需要も増加基調にあるという。国際金融市場になお潜在的な不安定性があるなかで、東アジア地域で邦銀や企業が現地

の通貨建ての資金を安定的に調達できることは重要である。アジア地域で債券市場を育成する動きは国際的に進められているが、日本が踏み込んだリーダーシップをとり、市場基盤整備を一層促進する必要がある。

第二は、企業再生の支援である。成長産業に投資し、得意分野でイノベーションを進めるのは当然だが、同時に、技術革新や人口減少などの影響で旧来型のビジネスモデルでは立ちゆかなくなった企業の統合、業種転換、

抜本的再生などを支援する必要がある。

地方の内需型中小企業では、収益管理を徹底することで生産性が著しく改善する場合も少なくない。カネだけでなく、情報分析と解決策の提供、リスクテーク、ビジネスマッチングなどの面でも金融機関の提供するサービスはこうした企業の再生に欠かせない。政府も企業の再生や新陳代謝をスムーズに進めるうえでの課題を把握し、環境整備に取り組むべきだろう。